aimer の直接目的補語位置に置かれた quand 節の働き

山本 香理
（関西学院大学大学院文学研究科研究員）

本発表の目的は，以下の例に示すような，動詞 *aimer* の直接目的補語位置に置かれた quand 節の機能を明らかにすることである.

(1) J'aime bien *quand tu me parles*... (A. Gavalda, 2004, *Ensemble c'est tout*)

従来，このような quand 節は *aimer, voir, remarquer* といった特定の動詞が従えるとされてきた．そして，quand 節はそれらの動詞の直接目的補語であるとされ，状況補語とは区別されてきた．その際に que 節との競合関係が指摘されることがある．さらに, quand 節の使用はくだけた話し言葉において認められると述べられることもあった.

従来の指摘に倣い，我々も quand 節を *aimer* の直接目的補語であると考える．しかし，従来の研究ではどのようにして直接目的補語の機能を果たすに至っているかは明らかにされていない．また，quand 節と que 節の使い分けについて正面から扱った研究は，我々の知る限りでは，皆無である．そして，「くだけた話し言葉」といったいわゆる言語レベルによる説明も十分ではない.

以上の問題点を解決すべく，本研究では，関連研究の記述や使用実態の観察とインフォーマント調査の結果に基づいて，quand 節の統語的特徴を考察し，quand 節と que 節の使い分けを明らかにする．ところで，直接目的補語となり得る要素として，上で挙げた補語節 (complétive) 以外にも，間接疑問節 (interrogative indirecte) と不定関係詞節 (relative indéfinie) がある．そこで，*aimer* の従える quand 節が間接疑問節または不定関係詞節として機能し得るかについて検討し, quand 節の機能についてより詳細な記述を目指す.